

令和 8 年(2026 年)8月17日
報告者:HKFA 審判委員会育成・普及グループ
岸本 拓洋

2026 年度(公財)北海道サッカー協会 都道府県審判トレセン ユース3級審判員研修会①報告書

- 1.日 時 令和 8 年8月12日(水) ~14 日(金)
- 2.場 所 TOMASEI フットボールフィールド
- 3.参加者 高校3年 請川 久登(札幌地区) 太田 碧飛(旭川地区) 片桐 奈槻(北空知地区)
菅原 翔太(札幌地区) 沼田 翔(札幌地区)
高校2年 池野 信之介(北空知地区) 高久 誠弘(オホーツク地区)
高校1年 前田 泰志(札幌地区) 藤川 恵太(旭川地区)
中学3年 玉手 和良(苫小牧地区)
- 4.講 師 岸本 拓洋(HKFA 審判委員会育成・普及グループ、サッカー2級審判インストラクター)
増田 裕之(HKFA 審判委員会育成・普及グループ、サッカー2級審判インストラクター)
糴山 智哉(HKFA 審判委員会育成・普及グループ、サッカー2級審判インストラクター)
8月12日(水)丑屋 幸大 高野 佑哉 吉村 心(HKFA 強化指定2級審判員)
8月13日(木)船橋 昭次(1級審判員)伊藤 唯翔 高須賀 哲平(HKFA 強化指定2級審判員)
- 5.研修内容 事前研修(ZOOM):研修会概要、8 人制 1 人審判法の確認、事前課題の説明
審判実技:FD カップ北海道 2026(U12 年代 8 人制 1 人審判)
講 義:強化指定審判員による講義、全国研修会参加報告、試合映像を用いた事象分析

6.研修会写真





7.研修会参加審判員感想

この3日間の研修会は、自分自身の武器と課題を明確にすることができた、学びと成長に満ちた貴重な時間となりました。研修の中でアドバイスをいただきながら、少しずつレフェリングを改善していく手応えを感じることができました。また、多くのユース審判員や関係者の皆様とのつながりを得られたことも大きな収穫です。

今後は、自分の強みを一層伸ばしながら、課題点も武器に変えられるよう日々のトレーニングや実践に励んでまいります。特に「自分のレフェリングをしっかりと言語化すること」と「研修等の場でより積極的に発言すること」を今後の重要目標として掲げ、より高いレベルを目指して成長を続けてまいります。



今回は慣れない1人制審判の担当でしたが、周囲の上手なレフェリーの動きを観察し、積極的に自分に取り入れたことで、昨年のFDカップの時よりも確かな成長を感じることができました。

同時に、更なる向上に向けた新たな課題や、まだ改善しきれていない課題も明確になりました。選手が少しでもプレーしやすい環境を作れるよう、今回の気づきを大切にしながら改善を重ねてまいります。

また、研修を通じて道内のユース審判員と交流を深められたことも大変嬉しく、互いに高め合える仲間ができたことを励みに、今後もより一層成長していきたいです。

本研修会を通じて、自身の審判としての確かな成長と手応えを実感することができました。特に試合中は常に周囲に目を配り、次のプレーを予測しながらアクシデントにも対応できるポジショニングを徹底いたしました。その結果、従来の探り探りな状態から脱却し、自分の中のレフェリングの「型」が形成されつつあります。担当試合の終了後には選手の保護者と思われる方から「ナイス審判!」とお声がけをいただき、本研修での取り組み成果を客観的にも確認することができました。また、審判活動で培った予測力や視野の確保は、自身が選手として課題を感じているボランチでのプレーにも好影響を与えるという、多角的な視点による相乗効果も実感しております。

今後は「型」にとらわれて視野が狭まることのないよう配慮しつつ、独自のレフェリー像を確立していく所存です。進路活動の状況を見極めながら今後も継続的に現場の経験を積み、選手・審判・指導者という多様なアプローチからサッカーへの理解を深め、信頼される審判員を目指していきます。



本研修会におきましては、自身にとって課題が多く残る、非常に悔しさの残る結果となりました。試合を安全にコントロールしきれず、結果として負傷者を出してしまったこと、また判断や言語化に時間を要し、積極的なチャレンジの回数が不足していたことなど、自身の未熟さを痛感いたしました。

しかし、今回の経験を通じて改善すべき点が明確になったことは大きな収穫です。2級審判員への昇格という目標を見据え、今後はより多くの情報収集に基づいた的確なポジショニングと、先の展開を予測した迅速な優先行動を徹底してまいります。失敗を恐れず果敢にチャレンジを重ね、今回の課題の一つひとつ確実に修正することで、選手が安心してプレーできる質の高いレフェリングを追求してまいります。

今回の研修会ではマネジメントについて深く知ることができ、非常に実りある時間となりました。船橋さんやHKFA強化指定審判員の皆様、インストラクターの方々のお話を通じて、「審判員の最終的なゴールは、選手が安心して安全にプレーできるゲームを提供すること」という大切さを学ぶことができました。

技術面の向上はもちろんのこと、今回の研修のリーダーという立場でオンザピッチ・オフザピッチ問わず仲間と積極的に関わられたことで、自分自身多くの新たな気づきを得ることができました。また、ユース審判員同士の横の繋がりができたことも大きな財産です。この研修で得た学びや気づきをしっかりと心に刻み、今後の審判活動にしっかりと活かして、より良いゲーム環境作りに貢献できるよう努めてまいります。



初めての1人制審判で分からないことも多くありましたが、インストラクターの皆様や仲間に教えていただいたことを意識して取り組み、自分なりの成長を感じられた貴重な研修となりました。ボールに近づく意識を持てた反面、走ることに必死になるあまり判定を流してしまったり、背後への意識が薄れて視野が狭くなったりした点が反省材料です。また、自信を持って堂々とシグナルを出すことや、走り切る体力面にも課題を感じました。

今後は、より広い視野で試合全体を捉えられるよう意識し、競技規則の深い理解に努めるとともに、いつでもスプリントできる体力を鍛え直します。教わったことを着実に身につけ、自信を持って判定を下せる審判員を目指して努力を続けていきます。

今回の研修会では「動きとポジショニング」を明確なテーマに掲げ、積極的に挑戦を続けました。その結果、ポジションの質が質の高い判定につながることを実感でき、審判としての大きな自信を得ることができました。また、仲間の良い部分を真似して実践することで、その利点だけでなく課題点まで深く理解できるなど、探求心の深まる素晴らしい3日間となりました。

研修中はユース審判チームを引っ張る意識を持ち、互いの経験を分かち合いながら切磋琢磨できたことも大きな財産です。単に走るだけでなく、「何を見るために走るのか」という目的意識を常に持ち、自分の武器をさらに磨いてまいります。

「全日本U-12サッカー選手権大会の決勝のピッチに立つ」という確固たる目標に向け、これからも失敗を恐れず挑戦する姿勢を持ち続け、質の高いレフェリングを追求していきます。





今回の研修会では、数多くの場面で積極的に挑戦することができ、大変実り多き時間となりました。自分以外の受講者の良いプレーや工夫を観察し、自分のレフェリングに取り入れられたことは大きな財産です。学びを深めるごとに審判という活動の楽しさや奥深さを再発見することができました。

この研修で得た成長と自信を胸に、今後は定期リーグ戦はもちろん、目標であるクラブユースの審判など、より上のステージでも活躍できるよう挑戦を続けてまいります。

サッカーを楽しみながら、審判員として更なる高みを目指して鍛錬を重ねていきます。

初めての1人制審判で、初日は分からないことや走り切れない部分も多くありましたが、切り替えの速さやポジショニング、そして「選手のためにどれだけ走れるか」を常に意識して取り組むことで、1日目よりも2日目、2日目よりも3日目と、自分でも驚くほど成長を感じられた3日間となりました。ここで学んだ走りやマネジメントは、今後の11人制の審判でも必ず活かしていきます。

また、これまでは意識していなかった「テーマを持って試合に臨むこと」の大切さを知り、今後は常に課題意識を持って走りたいと思います。選手やチームだけでなく、観客や運営の方々、そして自分自身を含めた全員が「楽しかった」と思える試合を作ることが目標です。

審判の技術だけでなく、礼儀や気持ちの作り方など、一人の人間としても大きく成長させていただける最高の研修となりました。



初めて数日間に及ぶ研修会に参加いたしましたが、滅多にない貴重な成長の機会となりました。同世代のユースレフェリーが集う刺激的な環境のなか、インストラクターをはじめ強化指定審判員や先輩方から直接ご指導や助言をいただいたことは、私にとって大きな財産です。

特にマネジメント面での学びは今後の11人制サッカーの実践にそのまま活かせる手応えを感じており、その他の指導内容についても日々の現場で着実に実践してまいります。今回の学びを自身のレフェリングに還元し、少しでも良い審判、そして選手から厚く信頼される審判員になれるよう努力していきたいです。

8. 研修会参加インストラクターより

まず、本研修会の開催にあたり、大会主催者であります株式会社 FIND(カベツサ北海道)様をはじめ、審判研修のために試合を提供いただいた参加チームの皆様、改めて深く感謝申し上げます。また、ユース審判員をご推薦くださった各地区協会ならびに全面的にご支援いただいた各地区協会審判委員会の皆様、心より御礼申し上げます。

本研修会は、北海道地域におけるユース審判員の育成において、きわめて重要な位置づけを持つ研修会であると考えております。この3日間で参加した審判員は1級審判員や強化指定審判員と共に活動する中で自身の学びへと繋げるだけでなく、参加した審判員同士が相互の学びあう姿勢を強く持ち研修会に臨んでおりました。1人制審判などの新たな挑戦を通じて失敗を恐れず果敢に取り組み、日に日に成長を遂げていく頼もしい姿が伺えました。マネジメントや目的意識を持ったポジショニングといった技術面の向上にとどまらず、「選手へ安心・安全なゲーム環境を提供すること」という審判員の本質的な役割や、競技そのもののへの愛着をより深く胸に刻む機会となったことは、本研修会の大きな成果であります。また、互いの良さを吸収し課題を共有し合う中で、将来の北海道のサッカー界を担うユース審判員同士の強固な横のネットワークが構築されたことも、非常に価値のある実りとなりました。

各審判員が自らの強みと課題を明確にし、2級上申や各種全国大会への挑戦といった高い目標意識と向上心を抱いたことは、今後の地域における審判レベルの底上げに直結するものと確信しております。

末筆ではございますが、熱心にご指導いただきました1級審判員・強化指定審判員の皆様、3日間にわたりサポートいただいた苫小牧地区サッカー協会審判委員会 玉手様をはじめ関係各所の多大なご協力に心より感謝申し上げます。

引き続き本委員会の取り組みに関し、皆様のご理解ご協力いただきますようお願い申し上げます。



Instagram~hokkaido_youth_referee

https://www.instagram.com/hokkaido_youth_referee?igsh=MWNobjNjNTg5ZWphdA==

